

脂肪乳剤の可能性

脂質と聞いて、みなさんはあまり良い印象を持たないかもしれませんが、体内ではとても重要な役割を担っています。

長期間の輸液管理をおこなっている場合は脂肪乳剤の使用が必要となりますが、脂肪乳剤がどのようなものかご存知でしょうか？

脂肪乳剤とは

脂質の主成分は大豆油の中性脂肪が原料となっており、これに乳化剤として精製卵黄レシチンを加えたものが脂肪乳剤となっています。

浸透圧比は1で等張となっているため、静脈炎のリスクも少なくなっています。



なぜ脂肪乳剤が必要？

脂質には人間の体内で合成できない必須脂肪酸というものがあ、食事などから必須脂肪酸を取り入れなければなりません。経口摂取が困難な場合は輸液による栄養管理をおこないますが、ラクテックもソリターT3もビーフリードも脂質含有量は0gとなっています。



つまり、TPN や PPN など輸液のみの栄養管理の場合、脂質が不足する為、必須脂肪酸欠乏となる可能性が出てきます。

※エレンタールなどのみの栄養管理の場合にも、必須脂肪酸が不足する可能性があります。

必須脂肪酸が欠乏すると魚鱗状皮膚などの変化が現れます。

投与速度について

脂肪乳剤は投与速度が速すぎると脂質のリポ蛋白化が間に合わず、消化を受けられなくなり、血中に取り残されてしまいます。その結果、血中脂質濃度が上昇し、脂質異常症となる可能性があります。

脂肪乳剤の投与速度は 0.1g/kg/h

体重 50kg の場合は 4 時間かけて投与しましょう。

